

## 6 / 4 『聖霊降臨の預言』（使徒1：3～8）

長谷川 望 牧師

- \* 本日はペンテコステとはギリシャ語で「50 日目」という意味で、主イエスの復活から 50 日目に弟子たちの上に聖霊が臨んだことを記念する日。このことは預言されていた。  
「その後、わたしは、わたしの霊をすべての人に注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、年寄りは夢を見、若い男は幻を見る。その日、わたしは、しもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。」（ヨエル書：28～29）旧約時代には、特別な預言者だけが聖霊を受けて神のことばを聞いた。しかし、いずれすべての人が聖霊を受けることができる時が来るという。それは男女、年齢、国籍、身分などに関係なく、「主の名を呼ぶ者はだれでも救われる」時代である。聖霊の時代が来る。
- \* 「彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを受けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」（使徒1：4～5）父の約束とは、ヨハネの福音書 14 章にあるように、まもなくイエス・キリストは天の昇られて見えなくなるが、代わりに聖霊が「助け主」として来られることである。
- \* 聖霊の降臨は激しい風のような音や炎のような舌をしるしとして伴った劇的な現れ方であった（使徒 2 章参照）。しかし、しるしは聖霊そのものではない。聖霊は三位一体の神であって目に見えない。聖霊は世の初めから存在しておられ、新約時代にはマリヤに働かれて主イエスを宿し、主イエスの受洗のとき鳩のように下り、多くの悪霊を追い出したことなど、ペンテコステ前にもその働きは大きかった。しかし、ペンテコステ以降は、私たち一人ひとりの内に直接働いて、より身近な存在になった。
- \* 「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」（使徒4：8）使徒たちは聖霊の力をいただいて、命がけで福音伝道に出て行った。ペンテコステは宣教の原点であり原動力である。私たちの教会は今まで数えきれない恵みを受けて来たが、その始まりはルツ・スミス宣教師であったことを思うと、今度は国の外に出て行く宣教に協力してお返しすることが求められている。